キャンサーひょうご

ひょうごがん患者連絡会 ニューズレターNo.31

発行責任者 黒田裕子　　編集 武内・田村・石上・草野

〒651-2109 神戸市西区前開南町 1-2-1 阪神高齢者障害者支援ネットワーク内
TEL 078-976-5050 FAX 078-977-0224　http://hyogo-capa.net/

ゆずりは の 活動について（近況報告）

ゆずりは代表　宮本直治

連日猛暑が続く夏のあと、ひとときホッとするすごしやすい季節となりましたが如何おすごしでいらっしゃいますか？　東北地方での活動が忙しい黒田さんから代表を引き継いで二年。普段は病院薬剤師として大阪で働いております。勤務の傍らですので、いろんな方に御迷惑をおかけしておりますが、副代表の田村さんはじめ、みなさまから温かい御声援やサポートを頂戴してき、この会のお手伝いをさせて頂いております。

‘ゆずりは’は通常、毎月第二土曜日に兵庫県民会館で例会を行います。今年度の例会では、前和歌山はまゆう病院副院長の伊藤浩二先生や上智大学名誉教授アルフォンス・デーケン先生、滋賀ヴォーリズ記念病院の細井 順先生などの諸先生方に御講演を行って頂き、参加者は様々な教えを頂きました。

例会では講演会の前に患者交流会を行います。この交流会が最近、大きな意味を持つようになってきましたので、私共の会の特徴として御紹介させていただきます。

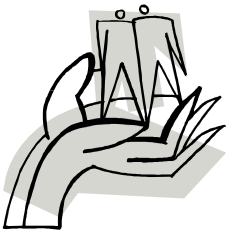
交流会を開始したら、早い時間にテーマを決め、それに沿った内容を参加者一同で考え始めます。その日の交流会でどういう意見が出てくるのか、それは全くわかりません。私が進行役をしておりますが、出された問題にどう対処していくのか、という進行方向はその瞬間、その場の空気が決めていくように感じています。進行にあたって参加された皆様に次の二点をお願いしています。一つ目は内容を他言しないこと。二つ目として、「今日、交流会で話した自分の言葉が、いつか自分の知らない所で、誰かの役に立つことになるかもしれない」・・そう信じて頂くことです。

ある日の交流会の場面です。「手術を医師から薦められたけれども、その術中死が４０％と言われ・・・怖くて受けられない。皆さんの意見を聞きたい」と、初参加されたＡさんの救いを求めるような言葉。進行役の私はまず、ガンの手術を受けたことのある参加者に手を上げて頂き、その中で《手術を迷った人》の経験談を順番に話して頂きました。続いて・・《迷わずに手術を受けた方々》に、その時に感じていた事や経験談を話してもらいます。もちろん、Ａさんが体験者に質問され、皆さんから様々なアドバイスを受ける場面も見られます。「私達は最適な治療を提示することは出来ません。でも、今の私達に出来ることをしよう。」そのような共通意識の中、参加者が自発的に手を上げて下さり、

悩めるＡさんの将来を考える時間が流れるのです。

治療という階段を前に、多くの人が悩み、たたずみます。でもその気持を汲みながらアドバイスしてくれる人は、・・・意外と見つからない。
そんな時、同じ経験をした人ならば、自分が歩いた道を伝えることが出来る。
これが私達経験者に与えられた役目の一つです。
一人の切実な悩みに全員で立ち向かうと、交流会に参加された方々の中に一体感がでます。この場を共有している者同士が感じる絆です。「みなさんの気持が嬉しいです。自分で治療方向を決め、キチンと向かい合ってゆきます」と会場を後にする相談者の姿に、私達も安堵するものです。

今月の例会には兵庫区にお住まいの御夫婦が「ホームページで見たから」と言って、初めて参加されました。御主人が二ヶ月前にガンと宣告され、この先をどのように生きてゆくのかアドバイスが欲しいということでした。いろんな意見がでましたが、ある女性の言葉がとても印象的でした。今年の春に亡くなられた世話人Ｍさんの奥様です。「主人が御世話になっていた会ですので、初めて参加させていただきました。これから私自身の生き方を考える必要があり、この会に参加させていただこうと思います。（中略）本日参加された奥様、どうぞ診察の時には御主人を一人にしないで、検査結果や診察結果を聞く時には出来るだけ一緒にいて差し上げて下さい。」

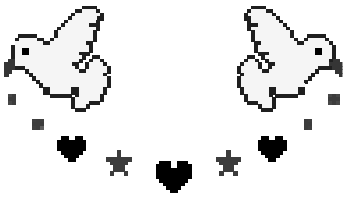


心に染みる優しさ・・・
御主人Ｍさんがガンになってから１１年間。
そばで支え続けてきた奥様の思いが、ここにありました。

交流会を患者同士で開いても、物事を患者目線だけで考えてしまいますが、同じ時に同じ経験をしていく人が傍にいて下さることが　自分の人生にどれだけ奥深い意味をもっているのか・・そのことを　あらためて問い直す姿勢をいただきました。帰り際、奥様は「こんな私に出来ることがありましたら、協力させていただきます」と仰って下さいました。世話人だったＭさんの姿や声に触れることはもう出来ません。でも亡き御主人の思いが、今日の奥様と私達との出逢いにつながったと思います。

交流会はいろんな人が、御自身の言葉で、深い思いを伝えて下さる場です。「病気になったから、ここでいろんな話しをお聞きする機会ができ、ガンになったことを有りがたいと思えるようになってきました。」という会員さん。「この人は一週間前にガンと診断された、新米ガン患者です。この会で元気をもらって帰って欲しいと思って連れてきました」と、御友人を紹介して下さった会員さんの笑顔も記憶に残っています。

人はみんな、揺らいでしまう弱さを持ち合わせている。
だからこそ、それを互いの絆で支え合う。
そんな交流会であればと思います。



病気が御縁で創られる、私の道

ゆずりは代表　宮本直治

響き渡る読経の声、ベットで静かに眠る男性。僧侶４人に御遺族５名と病院スタッフ 10 名。男性の胸元には看護師手作りのブーケが見える。でもここは葬儀会場ではなく、あそかビハーラクリニックで行われるお別れ会の場面です。

仏教系の看取り活動をビハーラと呼びます。現在、国内で僧侶が常駐しているビハーラ施設は二箇所。そのうち一ヶ所があそかビハーラクリニックです。施設内では浄土真宗のお勤めが毎日行われますが、仏教を押し付けることはなく、キリスト教信者の方や宗教に無関心な方も入院されます。

今、私はそのクリニックのビハーラ僧研修生です。ここに立つまでの道のりとして、昨年度浄土真宗本願寺派ビハーラ活動者養成講座を修了しました。午前６時に起床して読経を済ませ、夜９時頃までの３日間の座学を年４回。この他にも実地研修へ数回通いました。

5 年前胃ガンになった時、20 年前から仏法を触れていた私にとって後悔することは何か？・・・その答えは、「仏教をキチンと学んでいないこと」でした。三年間懸命に勉強し僧籍を頂きました。どう考えてみても僧侶となったのは、ガンのおかげです。さらに患者会に参加していたことがビハラーラ活動への自然な流れを作って下さったようです。

胃ガン→ゆずりは入会→僧籍取得→ビハーラ講座と真っ直ぐに歩んできた道は、この４月にあそかクリニックのビハーラ僧研修生の合格につながり、今は、残り時間が数日～数週間という患者さんの病室を一人で訪れ、心に耳を傾ける宗教家として、月２～３回クリニックに通っています。

今年６月に「たこ焼きパーティー」を行いました。広い談話室に皆様が集まります。奥さんに食べさせてもらって嬉しそうなＡさん。78 歳の B さんも長男夫婦やお孫さんに囲まれ、「楽しい、楽しい」とビールを飲みます。余命数日のＣさんは、無表情で反応が有りません。それでもお孫さん達は、タコヤキを C さんの枕元に運び、「じいちゃん、におい、わかる？」と笑顔で話しかけています。

どの方にとっても人生の一場面です。その日の様子を撮影して現像。病室に飾る写真と家族が持って帰る写真が渡されます。患者や家族、そしてスタッフも・・・限りある一人の時間をキチンと見つめ、自分達に出来ることを行う。そんな看取り施設にいる僧侶です。

医療者であって患者、そして終末期に関わる宗教家としての私に、今、見えることがある。「それらを全て使って時代に関わることがお前に与えた道なのだ、自分の人生で思い出をたくさん作ってきなさい」という太い声を感じています。その声を聞きながら行動できること感謝し、最期までこのいのちを抱きしめて、私の道を歩いて参ります。

宗教という言葉を魔法の杖のようには使わない・・
ただ皆様が御自身の命を今一度見つめていただけることが私の願い。
10 月には「宿坊で語り合うがん患者会の集い in 光澤寺」を行います。
御縁がございましたら、光澤寺でお会いしましょう。

ひょうご がん患者連絡会の活動概況を紹介します

（2013 年８月、９月 活動分）

事　務　局

2013 年８月 15 日(木):「神戸低侵襲がん医療センター見学会」、及び第４回運営委員会を開きました。

（１）「神戸低侵襲がん医療センター見学会」には、ひょうごがん患者連絡会から 21 名が参加した。

冒頭、藤井正彦病院長からご挨拶をいただき、放射線・化学療法などを組み合わせた先進的治療設備、及びがん患者の心のケアにも配慮した屋上庭園隣接の病室を見学した。次頁に概要報告を掲載する。

10 月 20 日（日）には、ひょうごがん患者連絡会主催の「がん治療市民講座」で藤井病院長から「神戸低侵襲がん医療センターにおける先進的治療について」と題する講演をお願いすることにしている。

（２）運営委員会では、10 月 20 日（日）開催の「がん治療市民講座」及び 11 月 16 日（土）開催の「第３回ひょうご県民がんフォーラム」への対応策について決定した。

2013 年８月 20 日（火）、21 日（水）：神戸市教育委員会及び兵庫県教育委員会に兵庫県立こども病院に開設される「院内学級」）に関する要望書を提出しました。

県立こども病院親の会「さくらんぼの会」の石上・馬戸正副代表、及びひょうごがん患者連絡会 武内事務局長の３名が兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会を訪問して、平成２７年に建替え予定の県立こども病院院内学級の充実策及び転校手続きの円滑化に関する要望書を提出した。６ページに要望書提出報告を掲載する。

2013 年９月７日（土）、８日（日）:「リレーフォーライフ芦屋 2013」を開きました。

雨模様の中、芦屋市川西運動場に約１５００人が集い「リレーウオーク」や「キャンドルラン」に参加して「ともに生きる勇気とよろこび」を分ち合った。

来年からは、新たに神戸震災復興記念「みなとのもり公園」でも、「リレーフォーライフ神戸」の開催を予定している。

2013 年９月 14 日（土）：がん拠点病院相談支援センター実務者ミーティングに招かれ、相談支援センターとひょうごがん患者連絡会との連携について話合いを行いました。

ひょうごがん患者連絡会 武内事務局長から「拠点病院との連携と相談支援センターに望むこと」と題してプレゼンテーションを行い、引続き連携の進め方について意見交換を行った。

ひょうごがん患者連絡会との連携強化、及び相談支援センターの支援機能の充実に、一層の進展を期待している。

2013 年９月 19 日（木）：第５回運営委員会を開きました。

主な決定事項は次の通り。

（１）神戸低侵襲がん医療センター 重廣本部長からのＴＢＳテレビ局取材への協力依頼について、ひょうごがん患者連絡会として対応する。

（２）11 月 21 日（木）18 時から、兵庫県がん対策推進計画の「患者団体等と連携した相談支援等の実施」、及び「重点市町等に対するがん検診受診啓発活動」の平成 25 年度活動計画について、疾病対策課と話合いを行う。

その他：兵庫県立こども病院で治療を続けている小児脳腫瘍の患児が、日本ハムの大引選手とキャッチボールをすることが出来ました。

9 月 19 日（木）、関西テレビ「アンカー」の番組で紹介された。

県立こども病院の患児 RYO 君（５歳）が、日本ハム 大引選手（当時はオリックス所属）の招待で野球試合を観戦してから野球に興味を持つ様になって、「大引選手とキャッチボールをしたいとの“夢”」が実現するまでの過程が放映された。

RYO 君は１歳５か月のとき小児脳腫瘍が判明して抗がん剤治療を続け、現在も週に一回は通院して抗がん剤治療を受けている。視力も落ち屋外に出て遊ぶこともなかった RYO 君の「夢」が、NPO 法人「まさゆめプロジェクト」の支援で実現した。

「RYO」の名前の入った日本ハムのユニホームを着て嬉々としてキャッチボールをする姿に、母親が「“いつの日か何らかの形で”このご恩に報いてくれると思います」と話されたのが印象的であった。

「神戸低侵襲がん医療センター」見学会報告

事 務 局

神戸低侵襲がん医療センターは、神戸市が 2007 年に発表した「神戸ライフサイエンス振興ビジョン」において、神戸大学に委託された「メディカルクラスター構想」に基づいて設立された高度がん医療サービス提供施設である。

日本のがん医療は、欧米先進国に比較して放射線療法・化学療法両面において大きく遅れており、国の「がん対策推進基本計画」でも重点施策として掲げている。

特に兵庫県は神戸大学をはじめ県立がんセンター、神戸中央市民病院においても放射線治療装置台数が少なく、かつ定位放射線治療や強度変調放射線治療の専用装置は１台もない。

これらの問題点に対応するために、神戸大学は、本年４月放射線・化学療法の専門病院として神戸低侵襲がん医療センターをポートアイランドに立ち上げた。

神戸低侵襲がん医療センターは、基本理念として「小さく見つけてやさしく治す」を掲げて、患者に低侵襲で最良のがん医療を提供できる体制をとっている。

具体的には、先ず診断部門において、Ｘ線ＣＴ装置、ＭＲＩ装置、及びＰＥＴ－ＣＴ装置すべて にレーザマーカシステムを設置し、これらすべての画像を放射線治療計画に利用することを可能にしている。診断結果に基づいて処置する治療部門には、次のような最先端治療装置を揃えている。

１、サイバーナイフ(CyberKnife)：ロボットアームに小型の放射線治療装置を搭載した定位放射線治療の専用装置。ロボットアームによりあらゆる方向から腫瘍に集中的に放射線を照射することが可能で、周囲の正常臓器への照射は最小限にとどめることができる。

２、トモセラピー(TomoTherapy)：強度変調放射線治療（IMRT)。腫瘍の立体的な凸凹に合わせて照射線量に強弱をつけて照射効果を高め、かつ周囲の正常組織への線量を低く抑える最先端のがん治療装置。

３、トゥルービーム(TrueBeam)：全国で初めて導入した最新鋭の放射線治療装置。正常な組織を守りながら治療効果をあげる“IMRT”と、呼吸の動きを補正する機能を組み合わせた最も先進的ながん治療システム。

４、IVR(Interventional Radiology)：Ｘ線透視画像や超音波画像、Ｘ線ＣＴ画像を見ながら体内に細い管（カテーテルなど）を入れて病気を治す放射線診断と化学療法を組合わせた新しい治療法。手術を必要としないため、身体に与える負担が小さく、病気の場所だけを正確に治療できる。

神戸新聞　2013年(平成25年)8月16日　金曜日　3地

がん患者連絡会の21人

低侵襲がん医療施設見学

神戸 最新機器など説明受ける

県内のがん患者の団体「ひょうごがん患者連絡会」のメンバーらが16日、今年4月に神戸市中央区港島中町8にオープンしたがん専門病院「神戸低侵襲がん医療センター」を見学した。同センターは放射線や抗がん剤による体への負担が少ない治療が専門。参加者は新型の機器を目に し、担当者に医療費や治療の手続きなどの質問をぶつけていた。

同センターは、外科手術ではなく、公的医療保険が適用される範囲で最新の放射線装置などを使った治療を施すことを基本方針に掲げる。4月以降の外来患者は延べ約4000人に上った。

同センターに関心を持っていた同連絡会が見学を申し込み、この日は21人が参加。藤井正彦病院長の説明を受けた後、呼吸で動いてしまう病巣を自動追尾して放射線を正確に照射する装置や、福上新園と隣り合う病室などを見て回った。

参加者からは「受診に紹介状は必要か」「検査も受けられるのか」などの質問があり、担当者らが予約用の電話手続きなどを説明した。乳立癌がんを患う、宝塚市の武内務さん(63)は「患者負担が少ない医療は心強い。患者仲間にも伝えたい」と話していた。（岩崎弟志）

医療スタッフから最新の治療に使う装置の説明を受ける参加者ら＝神戸低侵襲がん医療センター

最先端の医療設備群と“顔の見える医療”に配慮したレイアウトの素晴らしさに圧倒される見学会であった。

神戸新聞社の取材記事を添付する

この様な医療が、兵庫県の何処でも受けられる日のくることを願いつつ帰途についた。

教育委員会への要望書提出について（報告）

兵庫県立こども病院血液腫瘍内科親の会：
さくらんぼの会　石上久美　馬戸恵津子

平成 27 年度ポートアイランドに開院予定の新こども病院に開設される病院内学級（院内学級）に関する要望書を、さくらんぼの会　石上、馬戸、及びひょうごがん患者連絡会 武内事務局長の３名が兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会に提出しました。

訪問月日及び面談者は次の方々です。

８月２０日：神戸市教育委員会
　　面談者　指導部特別支援教育課　窪田指導主事、河地推進係長
８月２１日：兵庫県教育委員会事務局
　　面談者　指導部特別支援教育課　小俵主任指導主事

・要望事項は次の２点です。

1. 兵庫県立こども病院に設置される病院内学級を、特別支援学校の分教室とすること。

現在、こども病院では教室のスペースがないために、神戸市立友生支援学校の訪問学級で行われていますが、週２回１回９０分と十分ではありません。

移転建替え後のこども病院には病院内学級の教室が作られることになっていますが、私たち親の会では新こども病院に開設される病院内学級を病弱児童について専門の知識を有する特別支援学校の分教室とするよう希望しています。　分教室であれば、児童数が本校の生徒と併せて全体の人数でカウントされるため、患児の急な増加や院内学級への通学が困難な時のベットサイドでの授業にも、対応が可能であると考えられます。

2. 患児が円滑に前籍校に復学出来るよう、保護者・医療機関・前籍校職員・病院内学級職員の連携体制を確保するための支援をすること。

現在、院内学級の授業を受けるためには、地元の学校から病院内の学校へ転籍をしないといけません。前籍校への復学に当たっては、両親（主に母親）が中心となって動いているのが現状ですが、その対応は前籍校の教職員によって大きく異なります。保護者の負担も大きいので、統括コーディネーターを設けるなど、なんらかの工夫により関係者（保護者、医療機関、前籍校職員、院内学級職員）の密な連携体制を構築していただきたい。

また、自宅療養中も地元校などからの教職員の派遣を可能にし、学習が出来るよう配慮をしていただきたい。（そのためにも将来的には二重学籍を認めていただきたい。）

・市教委、県教委での話

市教委では、各学校に１人はコーディネーターが配置されているとの話しがありました。ぜひ連携を円滑にするために力を頂きたい旨のお願いをし、併せて病弱児童に対する対応についての教職員への再教育もお願いしました。

また、県教委では現在「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」について検討中であり、本年 12 月には報告案を公開してパブリックコメントを募集する予定なので意見を出して欲しいとのお話がありました。

今後も患児が十分な教育を受けて、学習面で遅れることなく円滑に復学できるよう、親の会、がん患者連絡会として意見を届けていきたいと思います。

関連団体等の公開講座行事予定（2013 年 10,11 月）

日時・場所	主催(TEL)・会費	テーマ・主な内容・講師
10 月 5 日（土）、6 日（日） 14：00～　～14：00 養父市立全天候運動場	リレーフォーライフ但馬実行委 （連絡先：info@rfl-tajima.net） 募金協力を！	リレーフォーライフ但馬 2013 「ともに生きる勇気とよろこびを！」 がんに立ち向う思いを語り一緒に歩こう
10 月 12 日（土） 13：00～15：00 チャイルド・ケモ・ハウス ﾎﾟｰﾄﾗｲﾅｰ「医療ｾﾝﾀｰ駅」徒歩 10 分	チャイルド・ケモ・ハウス 公開シンポジム （078-303-5315） 2000 円（寄付）要申込 40 名	「思春期・若年成年期にある がん患者・小児がん経験者の かかえる課題とサポート」 ・小児科専門医、若年性がん経験者ほか
10 月 12 日（土）8：50JR 三宮集合 あそかビハーラクリニック 京都府城陽市奈島下ノ畔	ゆずりは緩和ケア施設見学会 （Fax 0798-73-7120）要申込 参加費 500 円	・19 床の有床診療所 ・在宅療養支援診療所として 在宅医療にも取り組んでいる
10 月 27 日（日） 14：00～16：30 明石市生涯学習センター７階	ゆずりは明石公開講座 （078-911-6761 草野） 会員・学生 500 円、一般 700 円	「日本の医療の昨日・今日・明日」 ・南あわじ市公立診療所 大鐘稔彦院長 ・ﾌﾟﾚ演奏：上田賢一(ﾌﾙｰﾄ)新田喜子(琴)
10 月 12 日（土） 14：00～16：30 兵庫県民会館　３０４号室	ゆずりは公開講座 （078-976-5050） 会員・学生 500 円、一般 800 円	「死から 生といのちを考える」 ・大日本仏教慈善会財団 あそか第二診療所院長 大嶋健三郎 Dr.
11 月 16 日（土） 14：00-16：40 兵庫県民会館 9 階「けんみんﾎｰﾙ」	兵庫県立がんセンター 第 3 回ひょうご県民がんﾌｫｰﾗﾑ （078-929-115１）無料	「がんの在宅医療ーがんと付き合い、 自宅ですごすー」 ・行政・医療・患者会代表のｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
11 月 24 日（日） 13：00～16：00 神戸臨床研究情報ｾﾝﾀｰ（ＴＲＩ）	がん患者団体支援機構 第９回がん患者大集会 （078-976-5050 黒田）無料	「がん患者が望む最期の迎え方」 ・基調講演 長尾ｸﾘﾆｯｸ院長 長尾和宏 Dr. ・シンポジウム

関連団体等の「がんサロン」予定（2013 年 10,11 月）

主催(TEL)・会費・場所	テーマ・主な内容・講師	日　時
ゆずりは明石「明石話そう会」 （078-911-6761 草野）無　料 兵庫県立がんセンター １階	患者、家族の悩みを分ち合い 前向いて生きる寄り添える会を 目指しています	・毎月第 1,3 月曜日 10：00～12：00
ゆずりは明石「明石楽しもう会」 （078-911-6761 草野）300 円	10/8 ｺﾞﾑﾊﾞﾝﾄﾞ健康体操　内海正弘氏 11/21 ｱﾛﾏｾﾗﾋﾟｰで心身に癒しを　福島由美代氏	10/8,11/21　10：00～12:00 明石市立保健ｾﾝﾀｰ　３階
ゆずりは「がんサロン」 （078-976-5050）無　料 地下鉄伊川谷駅構内伊川谷工房	お茶を飲みながら 病や悩みについて 自由に語り合います	・毎月第４火曜日 13：30～15：30
ゆずりは明石「がん相談」 （078-911-6761 草野）無　料 明石市立保健センター1 階	「がん」についての無料相談 相談員：ゆずりは明石会員の 看護師・保健師・がん体験者	・毎月第４火曜日 13：00～16：00
ゆずりは淡路「淡路市サロン」 （090-6734-1275 山本）無　料 淡路市社会福祉協議会 １階	ひとりで悩まないで 患者さんや家族の方同士で 話し合いましょう	・毎月第４金曜日 14：00～16：00
ゆずりは淡路「南あわじ市サロン」 （090-6734-1275 山本）無　料 南あわじ市社会福祉協議会三原支部	ひとりで悩まないで 患者さんや家族の方同士で 話し合いましょう	・毎月第２水曜日 14：00～16：00
神戸医療ｾﾝﾀｰ「コスモスの会」 (078-791-0111、内線 460) 無 料 神戸医療ｾﾝﾀｰ「がん相談支援室」	・苦しみや悩みなどの気持を 自由に語り合い支え合いましょう ・情報交換をして知識を高め合いましょう	・ 毎月第３水曜日 14：00～16：00
淡路医療ｾﾝﾀｰ「菜の花サロン」 （0799-22-1200） 無　料 淡路医療ｾﾝﾀｰ１階「健康情報ｺｰﾅｰ」	どなたでも 自由に参加されて 自由に語り合いましょう	・ 毎月第３火曜日 ９：30～12：00
だいとうクリニック「花みずき」 (079-222-6789) 無　料 姫路市白銀町中ノ門ｼｬﾎﾟｰﾋﾞﾙ１階	・患者や家族間のコミュニケーション ・医療情報の提供 ・療養相談全般 ・インターネット検索・ちょっと休憩	・サロン：第３火曜 14：30～16：00 ・絵手紙教室：第３火曜 12：00～14：00

ひょうご がん患者連絡会行事予定（2013 年 10,11 月）

日　　時	行事・会費	テ　ー　マ・講　　師	場　　所
10 月 20 日（日） 14：00～16：30	第２回がん治療 市民講座	「神戸低侵襲がん医療センターにおける 先進的治療について」 病院長　　藤井正彦　医師	明石市 生涯学習 センター
10：00～12：00	第６回運営委員会	――――――――	明石市
11 月 21 日（木） 18：00～19：30	兵庫県疾病対策課 との話合い	平成 25 年度 「がん対策実行計画について」	兵庫 県民会館 1102 号室
19：30～21：00	第 7 回運営委員会	――――――――	

ニューズレターの編集について

このニューズレターは、４団体から応募いただいた編集委員による協議で編集し、会長の査閲を経て発行しています。

ニューズレターは 2008 年 9 月の創刊号以来、奇数月に発行し、ひょうごがん患者連絡会の活動概要報告及びお知らせページのほかに、文頭に各会員代表の持ち回り執筆文及び寄稿文を掲載しております。

各団体の会員のみなさま、および行政、医療、報道関係のみなさま方には、各会員の持ち回り執筆記事と併せて、ひょうごがん患者連絡会の活動概要にもお目通し頂き、ご意見などお聞かせいただきたく存じます。　　（ 事 務 局 ）

編 集 後 記

台風一過、すがすがしい秋がやってきました。皆さま台風被害はありませんでしたでしょうか？

ニューズレター9 月号は、がん患者グループ ゆずりは の担当で、活動近況報告に加えて宮本代表の宗教家としての活動の一端を寄稿いただきました。

文末に記載されている「宿坊で語り合うがん患者会の集い in 光澤寺」に関心のおありの方は、光澤寺 宗元住職までご連絡下さい。光澤寺の所在地と電話番号は下記です。

・所在地　鳥取県八頭郡八頭町南３９８

・電　話　０８５８－８４－１６５０

ゆずりは副代表　田村美生夫